

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300376		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム快栗駒	ユニット名	
所在地	宮城県栗原市栗駒稲屋敷後原前13		
自己評価作成日	令和 1年11月 16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和1年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改築した一軒家であり、小規模ではあるがその分家庭的な雰囲気を大切にしている。入居者様に孫や子供のように親しんで頂いている。昨年の外回りに加え、家具や照明を新しくするなど屋内の経年劣化の改修をすすめている。運営推進会議を再開し地域に開けた施設づくりを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、栗駒山の麓の風光明媚な田園地帯に囲まれた、住宅街の一角にある。自治会長の声掛けで町内のゴミ拾いや集会所の掃除、小学校の運動会に出掛け、地域の一員になっている。地元の中学生が授業の一環で、手縫いの雑巾を持って来訪し肩揉みをしてくれた。高校生が職場体験にに来る。入居者の得意なことを活かし、ボタン付けや他の方のズボンの裾上げをする等、出来る事を支援している。正月、節分の豆まき、雛祭り、七夕祭り等、職員と入居者が笑顔で一緒に行い楽しく暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム快栗駒)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型としての理念がある。	ホームの理念を基に、スタッフミーティングで作成した目標を玄関に掲げ、職員で共有している。好きなこと、したいこと、出来ることなど一人ひとりの思いを大事にしたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事に呼んでいただいたりしている。地区民運動会に参加し、地域の方との交流をしている。	自治会長や班長の声掛けで、町内のゴミ拾いや集会所の掃除に出掛けている。中学生が、手縫いの雑巾持参での来訪や将来介護施設を希望する高校生の職場体験を受け入れている。地域の方が野菜を届けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生との交流や、高校生の職業体験の受け入れし地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月8月10月と数年ぶりに開催した。事業所の報告、参加者からは意見をいただいた。	2ヵ月ごとに開催し、市職員、地域包括職員、自治会長、消防署員、家族が参加している。台風19号による地域の被害状況や祭りの情報を得た。消防計画変更の意見を貰い見直した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員と日ごろから連絡を取り合い、運営推進会議にも参加して頂き、アドバイスや意見を伺うようにしている。	生活保護の方の長期入居を相談し助言を受けた。地域包括の保健師より、インフルエンザが流行しており、予防接種を受け、うがい、手洗い、換気をする等の話があった。市主催の認知症ケア研修会に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとはいえない難くその都度注意しあうようにしている。	職員のストレスが、スピーチロックなどにつながったり、強い口調になることもあり、その都度注意し合い、拘束のないケアに努めている。「家に帰りたい」と言う方は、話を聞き、職員と一緒に散歩やドライブに行き気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が正しく理解しているとはいえない難くその都度注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料などを用い学ぶようにしている。必要と思われる方には提示するなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退去の際には本人、家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時など気軽に意見を言っていたけような雰囲気づくりをしている。運営推進会議での発言をお願いした。	家族の要望で、歩行訓練やテレビ体操を取り入れた。広報誌「快栗駒」や個別にそれぞれの日常生活「ホーム便り」を家族に写真付きで送付している。笑顔の写真が見られて嬉しいと喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また個別に話を聞くなどしている。	管理者は常に職員の声に耳を傾けている。薬の飲み忘れに服薬チェック表の導入やミキサー食が増え使いやすいミキサーの買い換え等、職員の意見が反映した。資格取得の支援や希望休に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員と面談や話し合いを行い、各自向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援センターでの研修、市主催の勉強会に出席し、職員勉強会などでの共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に他施設の方と交流したり、法人内での職員交流会を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、安心して生活できるよう信頼関係の構築に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、ホームの案内をするとともに、家族等が困っていることや不安なことに耳を傾け関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が抱えているニーズや気持ちを確認しながら、最適なサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく本人の残存機能や生活習慣を生かして、ともに過ごせる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや生活状況を書面でお知らせし情報の共有に努めている。また本人の意向を伝えるなど本人と家族の関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人、知人に気軽に会いに来ていただいたり、なじみの場所に足を運べるように支援している。	自宅近くにドライブに行ったり親類と温泉に行く等、関係継続に支援している。居室で仲よし同士、洋服を貰ったりお返しにアクセサリを上げたりしている。孫が曾孫を連れての来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるよう間に入り通訳したり、気の合いそうな方との仲を取り持ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても関係性を大切にしながら、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合には表情を読んだり、家族から聞いた情報をもとに本人本位で検討している。	日々の会話や、入浴時などに思いを聞いている。小学生の頃、隣の席の女の子に初恋をしたことなど聞いた。自宅で作ったネギを食べたい方が居て、職員と一緒に取りに行き、皆に食べてもらい喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、生活環境の把握に努め、これまでの生活と変わらない生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子の観察や日々のかかわりの中で一人一人の過ごし方、心身状態、有する力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や受診結果、家族からの情報をもとにケアマネージャーが介護計画を作成している。また職員会議でのケアカンファレンスを行っている。	本人の日々の記録を基に、ケアマネがまとめ、職員でカンファレンスしてケアプランを作成している。消化器官の疾患の方のプランには、医師の指示で食事間隔を開けてゆっくり食事を摂るよう反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別の介護記録に記載し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	親しくなってからホームへ行ってみたいという本人や家族の意向に沿い、数か月間お宅訪問しお茶会をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め、本人が豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通いなれたかかりつけ医での適切な医療を受けられるよう支援している。	職員または家族が生活状況とバイタル記録を持参し、受診している。結果は介護記録に記入し、職員で共有している。急変時は家族に連絡し、緊急搬送になる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受信時に情報や気づきを相談している。訪問看護の検討しているが、なかなかステーションとの締結に至っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院治療を受けられるよう病院に面会に行ったり、早期退院できるよう家族や病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に加え、要所要所でホームでできることできないことを伝え、本人や家族の意向もつかうようにしている。	「グループホーム快栗駒の看取り介護に関する指針」に、ホームの出来ること、出来ないこと(医療処置)のマニュアルを作成している。指針の説明がなく、家族の同意を貰っていない。今後は、家族に説明しサインを貰うようにして頂きたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え応急手当や初期対応についてマニュアルを整備している。すべての職員ではないが救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月の地域の訓練は悪天候で中止となった。9月避難訓練を行い、12月に夜間想定訓練を計画している。	年2回避難訓練(夜間想定も含む)を近所の方々に声掛けし実施している。難聴の方への避難誘導について職員で話し合った。消防署よりスプリンクラーの早期設置と消防用設備を点検、報告する事の指摘を受けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けや対応を心掛けているが、スピーチロックをしてしまうこともあり、職員間で互いに注意しあうようにしている。	居室の出入りは、ノックして入室している。失禁時は、小声で周りの方に気づかれないように声掛けし、プライバシーにも配慮している。居室のハンガーから好みの服を着用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表したり自己決定ができるよう働きかけている。困難な方のに表情を読んだりジェスチャーを交えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にしているが、時にホーム側の決まりや都合を優先させてしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アクセサリーやお化粧品、衣服などその人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしえんしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材注文の際に食べたいものを選んでいただいたり、好みの把握するようにしている。季節の物や地域の物を取り入れている。	食材は入居者と一緒に注文表を見て注文したり、食事の準備、後片づけを一緒にするなど、食事の楽しさを支援している。誕生日には、ちらし寿司、混ぜ御飯、カボチャ煮など本人のリクエストや好物を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの指導をもとに、ミキサー食やロミ食など状態に合わせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人一人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるよう、排泄パターンや習慣を生かした支援を行っている。	日中は、自力で排泄する方3名、他の方は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間での声掛けでトイレ誘導している。夜間は、パッドの大きさ、ポータブルなど個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックシートを使用し、便秘がちな方には飲食物の工夫や運動の働きかけ、腹部のマッサージなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながらひとりひとりの生活習慣や希望・タイミングを図り安全に楽しんで入浴できるよう支援している。	一番風呂や最後にゆっくり、同性介助など希望を聞き、週3回位の入浴である。拒む方は、「体を綺麗にしましょう」など声掛けに工夫し、入浴に繋げている。職員は家族の話や畑仕事をした事などを聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度、布団の重さなど、一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよくお休みできるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的や副作用、用法や用量の理解に努め、服薬の支援症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできることや趣味嗜好・生活歴を活かした作業を通してやりがいを感じていただけるようにしている。季節ごとの行事を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の散歩したり、運動会の見学、自宅へのドライブなどの外出。ウッドデッキでの外気欲など戸外に出かけられるよう支援に努めている。墓参りや法事など家族と連携して行っている。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒に近隣を散歩したり、ウッドデッキでお茶を飲んだり過ごしている。インフルエンザ予防接種の帰りに馴染みの町内をドライブしてきた。コンビニやスーパーなど個別の希望にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり管理している。買い物の際などにお渡しし会計をしていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話のやり取りができるよう支援している。職員が代弁代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、温度など不快に感じないように要望や表情を確認しながら配慮している。リビング内を食事と休憩する場に分け居心地よく過ごせるよう工夫した。入居者 同士の相性や気分に合わせて、座る場所を変えて頂いたりしている。	リビングは、暖かく換気や温・湿度が管理されている。壁のホワイトボードに、大きな日付けカレンダーや今月の行事(クリスマス)の予定表が貼られていた。ソファで仲良し同志、手をつないで歌を歌ったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やアウトデッキにもソファやいすを設置し、思い思いに過ごしていただけるような居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して居室を決めたり、使い慣れたものやなじみの物を持ってきていただき、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた、タンス、衣装ケース、ポータブルトイレを持ち込んでいる。家族の写真や自分の似顔絵を貼り、枕元に好きな猫の人形を置き、整理整頓もなされている。裁縫したり、毎日鉢に水をやるなど過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」を活かして、できるだけ自立した生活が送れるように安全な環境作りにも努めている。		